

# 事業所における自己評価結果

討議年月日:令和 6 年 3 月 7日

公表:令和 6 年 3 月 11 日

事業所名 kids space リフライズ府中大須

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%				・日によっては密になることがあるが、外出に対して消極的な利用者が多いので、屋外での活動の提案も工夫していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	88%		12%	職員が多く配置出来ている日は、個別対応する機会を設けたりと、こども達の要望にも臨機応変に対応している。	今後も、子どもたちの特性にも配慮しつつ、適切な人数の支援員の配置となるように努めていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	77%		23%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%			必要に応じて支援員間で意見交換するよう日頃から心掛けていく。	支援員1人ひとりの意見が出やすいような話し合いの場の環境設定を工夫していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			保護者様のアンケート結果を支援員間で共有し、意向に沿った支援を取り入れている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			100%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			事業所外の研修にも参加している。	・外部研修内容も必要に応じて、事業所内で共有していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・日々の支援中でのやり取りでの、子どもたちの思い等も、保護者様と必要に応じて共有している。 ・面談時に保護者様の思いも汲み取り計画書に反映している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66%		34%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			・イベントに関しては担当を振り分け準備を分担して行っている。 ・支援員間で担当制とし、様々な視点からの意見を取り入れている。	・ミーティングや回覧はできているが、支援員全員が集まれるタイミングがなかなかなく、支援前の話し合いやイベント等の振り返りが不十分になりがちなので、きちんと場を作していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			・子どもたちの意見も取り入れながら、立案している。	・今後も色々な活動を提案し、様々な経験と振り返りをしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			・子どもたちの負担につながらないように配慮しつつも、活動時間に応じて、取り組む内容等を検討している。	・サービス提供時間が長い日は日頃、なかなか経験出来ないような活動もうまく取り入れていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・子どもたちの特性に応じて、支援内容を検討・実施している。	・子どもたちの負担につながらないように配慮はしつつも、将来を見据えた支援も少しずつ取り入れていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			・支援員間の連絡ツールも用いながら、情報共有に努めている。	・屋外での活動の際は、事故等につながらないように、より細かい打ち合わせをしていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			・支援員間の連絡ツールも用いながら、情報共有に努めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			・気になる点や、良い変化に素早く気づけるよう、簡潔に記録し、支援員間で共有している。	・各支援員の様々な視点からの振り返りを点をうまく活用していきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			・何か気になる事があれば、モニタリング時期以外も面談等している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%			・ガイドラインの内容を支援員間で周知し、いつでも内容の確認が出来るようにしている。		
関係機関	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			・児発管、管理者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%			・必要に応じて学校とも連携を図り、子どもたちの情報を共有していけるよう日々、心掛けている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	77%		23%	・対象児なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との	89%		11%	・保護者から情報を提供してもらっている。	

関 や 保 護 者 と の 連 携		間で情報共有と相互理解に努めている					
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		100%		・対象見なし。	今後、必要となった際は、継続した支援が行えるよう細かい情報共有となるように密な連携をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%		33%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	11%		89%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			・連絡ノートで利用日の様子や自宅での様子も共有し、日々の些細な出来事等も必要に応じて共有している。	・内容によっては、保護者と支援員間でのみの共有とする等、状況に応じて共有する範囲を決めていきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	44%		56%			
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			・契約時に説明し、その他の場面でも必要に応じて伝えている。	安心してご利用いただけるよう今後も丁寧な説明を心がけていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			・いつでも相談しようと思っただけのよう、保護者様の思いに寄り添い、相談・助言をするように心掛けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%			・1年に1回のペースで保護者様にも参加していただけるイベントを実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			・迅速かつきめ細かな対応となるように心掛けている。	・今後も安心してご利用いただけるように、保護者様、子ども達に寄り添った対応をしていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			・ハグのアプリ内で活動予定等を公開している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%			・厳重に管理を徹底するよう心掛けている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			・メッセージでのやり取り等、保護者様が気軽にいつでも相談できるツールも活用している。	・面談、電話、メッセージ等、保護者様の要望に応じて臨機応変に相談出来るツールを活用していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			100%		
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%			・支援員間で周知し、必要に応じていつでも内容を確認出来るようにしている。	・定期的に内容を確認し、事案発生時にスムーズに対処できるようにしておきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			・年に2回のペースで訓練を実施している。	・いつ災害が発生しても対応できるよう、必要な物品の内容確認等も定期的に行っていくたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			・年に1度の国が定めた虐待防止・擁護権利研修を事業所内で実施すると共に日々の支援の中で、各支援員の対応で気になる点があれば、意見交換等を行っている。	・各支援員が虐待に関する知識を深め、適切な支援となるように気を引き締めて業務にあたりたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載している	100%			・対象見なし。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	78%		22%	・食事や調理関係のイベントの際にも都度再確認している。	・事故につながらないよう、事前の確認を徹底していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%				